



アンリツのCSR

CSRマネジメント

基本的な考え方

アンリツグループは、「誠と和と意欲」を掲げた経営理念のもと、法令・倫理・社会規範の遵守をベースに、事業活動によるCSRを通して経済・社会・環境面の企業責任を果たします。また、コミュニケーションによってステークホルダーの皆さまとのより良い関係を構築し、企業価値およびブランド価値の向上を目指します。

事業戦略と連動したグローバルCSRを 実践

アンリツグループは事業戦略と連動したCSR活動を推進するために、2012年度からビジネス上の戦略である中期経営計画に沿った形で、CSRの中期計画を策定し、活動しています。2015年度から2017年度までの3年間の中期経営計画である「GLP2017」および、その先にある「2020VISION」を念頭においてCSR活動を実践しています。

2020VISION

1 Global Market Leaderになる

- アンリツらしい価値創造
- ワールドクラスの強靱な利益体質の実現

2 事業創発で新事業を生み出す

- 新しい分野でアンリツの先進性を発揮

アンリツのCSR達成像

達成像 1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

1. お客様へのサービス
2. 社会課題の解決
3. 社会要請への対応

達成像 2

グローバル経済社会との調和

4. コンプライアンスの定着
5. リスクマネジメントの推進
6. サプライチェーンマネジメント
7. 人権の尊重と多様性の推進
8. 人財育成
9. 労働安全衛生
10. 社会貢献活動の推進

達成像 3

地球環境保護の推進

11. 環境経営の推進

達成像 4

コミュニケーションの推進

12. ステークホルダーとのコミュニケーション

4つの達成像の実現に向けて

アンリツでは、私たちの活動の中長期的な達成像を見出すため、2006年に「アンリツCSR活動のあるべき姿」を描きました。ステークホルダーの皆さまとこの4つの達成像を共有し、責任を持って中期経営計画「GLP2017」および「2020VISION」に取り組むことで、その先にある「あるべき姿」の実現が確実にとなると考えています。

これら達成像の策定以降、変化する事業環境や社会要請を考慮し、重要課題や目標の見直しなどを随時実施してきました。また、社会の皆さまとアンリツグループの利益ある持続的成長に向けた取り組みの充実と進捗状況などについて、幅広い情報開示を行っています。

アンリツを取り巻く ステークホルダーと 4つの達成像

アンリツグループのビジネスは、さまざまなステークホルダーとの信頼関係の上に成り立っています。私たちは、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを通じて、より良い関係を築いていくことが大切だと考えています。

また、各事業所、各部署、各役員・社員一人ひとりが、社会やステークホルダーのニーズを認識し、それぞれの日常の業務に反映していくことができるような風土づくりを進めています。



達成像 1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

アンリツの姿	アンリツは、オリジナル＆ハイレベルな技術によって、皆さまの安全と安心を守るために貢献している。
社員の姿	社員一人ひとりが、お客様の声を聞き、市場の期待を上回る品質の商品・サービスと迅速なサポートを提供している。
社会からの評価	そして、アンリツの技術に対する一定の評価をいただきつづけ、アンリツブランドの信頼を築いている。

達成像 3

地球環境保護の推進

アンリツの姿	環境理念に基づき、バリューチェーン全体を通して、気候変動対策、循環型社会形成、汚染予防に取り組むグローバル環境経営が定着している。
社員の姿	社員一人ひとりが、エコマインドを高め、自身の業務に密着した環境活動を自立して実践している。
社会からの評価	そして、グローバル環境経営を推進し、地球環境保護に積極的に貢献する企業として社会から認知されている。

達成像 2

グローバル経済社会との調和

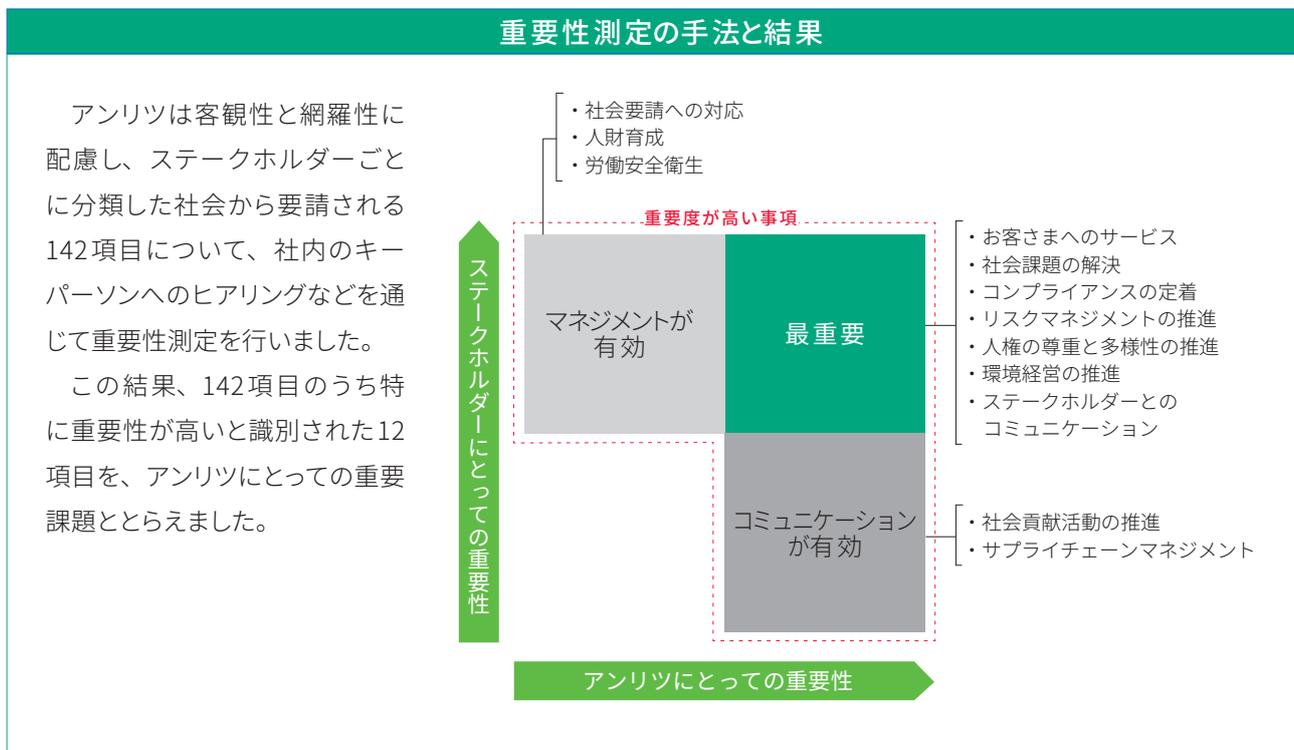
アンリツの姿	アンリツは、グローバル展開において、各地域の文化や特性と調和した事業活動を行い、サプライチェーン全体で社会的責任を果たしている。
社員の姿	社員一人ひとりが、コンプライアンスを意識し人権を尊重し、多様な属性・文化・価値観のもとで生き活きと働き、成長している。
社会からの評価	そして、地域に密着した社会貢献活動により、地域・社会との信頼関係を構築している。

達成像 4

コミュニケーションの推進

アンリツの姿	アンリツは、事業活動全体を通して、ステークホルダーへの積極的な情報開示と対話を行い、パートナーシップを構築している。
社員の姿	社員一人ひとりが、ステークホルダーからの期待に耳を傾け、積極的なコミュニケーションを行い、相互理解を醸成している。
社会からの評価	そして、ステークホルダーに対してアンリツの姿を正しく伝え、アンリツに対する評価と信頼を築いている。

マテリアリティ



社会の要請(ステークホルダーにとっての重要性)については、CSRのガイドラインやCSR活動の評価を目的とする調査会社、報道機関、行政機関などのアンケート調査およびお客さま企業からの「CSR調達」調査内容を参考にして毎年見直します。社内のCSRに関連する部門で横断的に組織されたCSR推進部会で見直しを行い、各部門は年度計画や中期計画の見直しへ反映しています。

▶ 選択されたCSR重要課題(GRI-G4アспект)

カテゴリー	経済	環境	社会			
サブカテゴリー			労働慣行と ダイバーシティ・ワーク	人権	社会	製品責任
側面 (アспект)	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的パフォーマンス ・地域での存在感 ・調達慣行 	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー ・水 ・大気への排出 ・製品およびサービス ・コンプライアンス ・サプライヤーの環境評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修および教育 ・多様性と機会均等 ・サプライヤーの労働慣行評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・非差別 ・児童労働 ・強制労働 ・サプライヤーの人権評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・腐敗防止 ・反競争的行為 ・コンプライアンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客の安全衛生 ・製品およびサービスのラベリング ・コンプライアンス

これらの側面(アспект)を有識者ダイアログでも議論し、アンリツのCSR重要課題として新たに認識するに至りました。

4つの達成像の実現に向けたアプローチ

アンリツグループのアプローチ	関連する達成像
<p>Social</p> <p>アンリツは、時代の変化に適応した革新的な商品やサポートを継続的に提供することで、世界中のお客さまに信頼され、グローバルに選ばれ続けるブランドになりたいと考えています。人々の暮らしや安全に役立つ製品を提供するとともに、グローバルに事業活動を行うことによる、社会的影響を認識し、ステークホルダーとの関わりをなかで、サステナビリティに配慮した事業活動を行っていきます。</p>	<p>達成像 1 お客さまへのサービス、社会課題の解決、社会要請への対応</p> <p>達成像 2 サプライチェーンマネジメント、人権の尊重と多様性の推進、人財育成、労働安全衛生、社会貢献活動の推進</p> <p>達成像 4 ステークホルダーとのコミュニケーション</p>
<p>Environment</p> <p>地球環境保護は、気候変動問題などの世界の課題を解決するための重要なテーマです。アンリツグループ環境理念のもと、バリューチェーン全体に及ぶグローバルな環境経営を通じて、人と自然が共存できる豊かな社会づくりに貢献します。</p>	<p>達成像 3 環境経営の推進</p>
<p>Governance</p> <p>アンリツグループは、企業の社会的責任を強く自覚し、倫理・法令遵守はもちろん、社会的要請に適応した健全で誠実な行動を推進します。また、経営に影響を及ぼすリスクを適切に管理することで、企業価値向上を図り、持続的発展を目指します。</p>	<p>達成像 2 コンプライアンスの定着 リスクマネジメントの推進</p>

SDGsへの対応

アンリツは、国連が掲げる「持続可能な開発目標(SDGs)」を踏まえ、どのようなインパクトを自分たちが社会に与えているか、検討をすすめています。



VOICE



株式会社アイデアシップ
代表取締役
後藤 大介 様



アンリツ株式会社
取締役 常務執行役員
窪田 顕文

社会課題解決に向けて、 事業とリンクした 中長期の目標設定に期待

アンリツのCSR重要課題は、ステークホルダーとアンリツの関係性を丁寧に分析し、企業としての社会的責任に十分に配慮した内容となっています。社会の多様化が加速するなか、製品やサービスの提供などの本業と社会に与える影響との直接的な結びつきを意識し、マテリアリティを見直す時期にきているのかもしれない。

そのためのステップとして、グローバルやローカルでアンリツと関わるステークホルダーをこれまで以上に細かく分析し、そのなかでもアンリツに対して特に大きな期待を持ち、影響を与えるステークホルダーと能動的に対話を重ねることが重要です。

近年では国連が「持続可能な開発目標(SDGs)」を掲げ、企業もその責任を果たすことが求められています。SDGsの背景を的確に理解し、アンリツとの関連性を考察しながら、事業と深く結びつけていくことが重要です。SDGsの達成年度に設定された2030年に向けて、アンリツの中長期の経営計画に反映させるための材料と捉えるべきでしょう。

変化を捉えた重要課題の見直し、 SDGs等の社会要請対応に注力

後藤様には、毎年CSR活動へのアドバイスをいただき、大変感謝しております。

ステークホルダーの代表として2008年度、当社が「CSR重要課題(マテリアリティ)」を検討する際にもご参加いただきました。

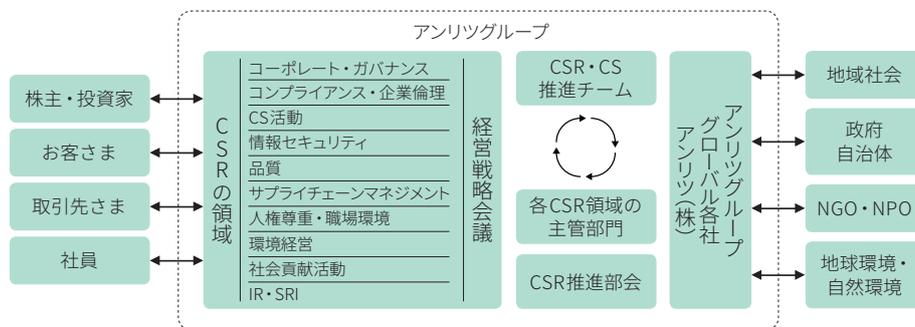
重要課題は、社会・経済状況の変化、ステークホルダーの要求の変化、そして環境の変化などにより、時代とともに大きく変わると認識しています。アンリツでは、これらの変化を捉え、企業活動として取り組んできました。後藤様のご指摘のとおり、2008年当時の社会要請とは大きく変化してきていますので、重要課題の見直しを行う時期にきていると認識しています。

以前と比べると株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションの機会がとて増えました。特にグローバルに事業を展開する当社の特徴として、海外投資家とのコミュニケーションの機会が増えてきています。多くのステークホルダーとのコミュニケーションをもとに、重要課題の見直しを行うとともに、グローバル企業として透明性の高い情報公開を推進していきます。

なお、国連が提唱しているSDGsについては経営会議でも取り上げており、今年度は、社内での活動を具体的に展開、目標設定、経営への統合、中期経営計画2020への織り込みを計画しています。

CSR推進体制

2004年に発足したCSR推進委員会では、社長が委員長を務め、経営トップ自らがCSR活動を推進していました。また、多岐にわたる部門の取り組みを統一的に推進するために、専従部門としてCSR推進室を組織しました。2016年4月より、CSR(ESG)の課題は経営の重点項目の一つとして、経営戦略会議において審議する体制としました。現在はコーポレートコミュニケーション部CSR・CS推進チームが、経営戦略会議の方針のもとAnritsuのCSR活動を推進しています。実効性ある活動を進めるために、CS、品質、人権、社会貢献など、CSRの各領域を主管するAnritsu(株)の担当部門を中心に、グループ会社と横断的な連携を取り、CSR・CS推進チームが事務局となって活動を推進しています。各領域についてCSRの視点で現状を把握・分析し、今後対処すべき課題を各組織で取り組みます。



グローバルCSRの推進

Anritsu Group is promoting CSR activities globally and deepening communication with all stakeholders worldwide. To this end, we have defined the system for each region and are advancing information exchange based on an annual schedule. Below are the 10 items for which we report annually to our CSR/CS promotion team from the respective region.

● グローバル体制

本社=コーポレートコミュニケーション部CSR・CS推進チーム
 米州= Anritsu Company(米国) 人事部門
 欧州= Anritsu EMEA Ltd.(英国) 人事部門
 アジア= Anritsu Company Ltd.(香港) 人事部門

● 活動項目

- | | |
|-----------------------|---|
| ① CS activities | ⑥ Information Security |
| ② Quality Improvement | ⑦ Protecting Human Rights |
| ③ Health and Safety | ⑧ Valuing Employees |
| ④ Compliance | ⑨ Promotion of Environmental Management |
| ⑤ Supply Chain | ⑩ Conducting Social Contribution Activities |

● グローバル会議の実施

グローバル会議を年次で1回以上実施しているコーポレート部門は下記のとおりです。

環境・品質推進、人事、監査、経理、情報システム、貿易管理、資材調達